

令和8年度入試の出題意図・ねらい

国際関係コース 総合型選抜

全体
国際関係コースでは、北東アジアをはじめとするアジア地域や国際社会と日本との関わりやその中で生じる現代的な諸課題について、グローバルな視点から分析し、多文化共生のための知識を編み出せる人材を求めている。このアドミッション・ポリシーに沿って、現代の日本社会で生きる在日クルド人の直面する課題を扱った文章を出題した。各設問では、文章中に示された著者の考えや論理を的確に把握できているか、また、多文化共生問題に含まれる複雑さを多角的な視点で捉えられるか、さらに、多文化共生社会の実現に向けて、自らの考えを論理的に考察・表現する力があるかを確認する問いを設定した。
問1
近年クルド人に対する差別・偏見が強まっている背景について、著者の主張や論理の要点を的確に把握できるかを問う。 国際関係コースのアドミッション・ポリシーに基づいた評価の観点 ・ 《求める人材》1(2)の「日本語の文章の読解力と、口頭及び文章で適切な日本語を論理的に運用する力」を見る。 ・ 《高等学校段階までの学習で身につけてほしいこと》2の「まとまった分量のある日本語の文章を筋道立てて読み解く力と、口頭及び文章で適切な日本語を論理的に運用する力」を見る。
問2
文章における「クルド人の不安」と「日本人住民の不安」という二つの感情に焦点を当て、その背景にある諸要因を分析させることで、複眼的な視点から社会問題を捉える力を問う。 国際関係コースのアドミッション・ポリシーに基づいた評価の観点 ・ 《求める人材》1(2)の「日本語の文章の読解力と、口頭及び文章で適切な日本語を論理的に運用する力」を見る。 ・ 《求める人材》2(1)の「北東アジアをはじめとする国際社会や、グローバル化が進む日本国内の社会が抱える諸課題について、根拠に基づき論理的な筋道を立てて考察し、自らの意見を説得力ある形でまとめ、他者に伝える力」を見る。 ・ 《求める人材》3(1)の「北東アジアをはじめとするアジア地域や国際社会、またグローバル化した国内社会が抱える課題に強い関心を持ち、背後にある歴史や地域的特性について主体的に探究しようとする姿勢」を見る。

問 3

「共生」の意味を示し、その実現可能性を検討したうえで、日本社会に求められる姿勢や取り組みを論じる力を問う。文章の内容を適切に参照しつつ、高等学校での学びや自身の経験を結びつけ、多文化共生社会の課題を主体的に考察・表現する力を問う。

国際関係コースのアドミッション・ポリシーに基づいた評価の観点

- ・ 《求める人材》2(1)の「北東アジアをはじめとする国際社会や、グローバル化が進む日本国内の社会が抱える諸課題について、根拠に基づき論理的な筋道を立てて考察し、自らの意見を説得力ある形でまとめ、他者に伝える力」を見る。
- ・ 《求める人材》3(2)の「多文化・異文化への好奇心及び寛容な姿勢と、海外留学や学内外の様々な多文化共生活動について積極的・能動的に関わる志向性」を見る。
- ・ 《高等学校段階までの学習で身につけてほしいこと》4の「地理歴史・公民の知識を総合的に関連づけて問題関心を養い、自己の体験総体を生かして幅広い視野から日本及び世界で生じている複雑な社会現象を考察しようとする意欲」を見る。